

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

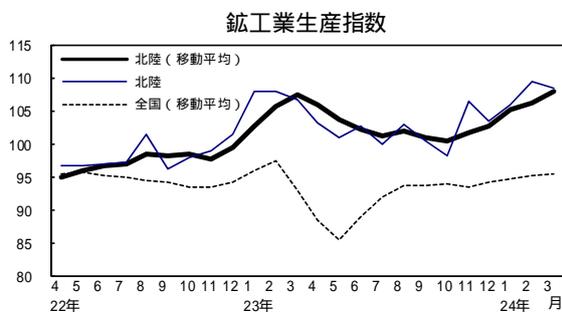
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 2 月)	今回 (平成 24 年 5 月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	緩やかに回復しつつある	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに増加	
住宅建設	減少	大幅に減少	
雇用情勢	持ち直し	改善	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

一般機械は、円高や海外経済の減速等を受けて金属加工機械や繊維機械等が低調だったことから、減少基調で推移した。電子部品・デバイス、スマートフォンやタブレット型パソコン向けの電子部品を中心に増加基調で推移した。化学は、後発医薬品(ジェネリック医薬品)等の生産増加を受けて大幅に増加した。金属製品は、ビル用のアルミ需要が一服したこと等から減少した。繊維は、円高や海外経済の減速等から衣料品向け等が減少したが、非衣料品向けが自動車の生産増加を受けて持ち直していることから増加した。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

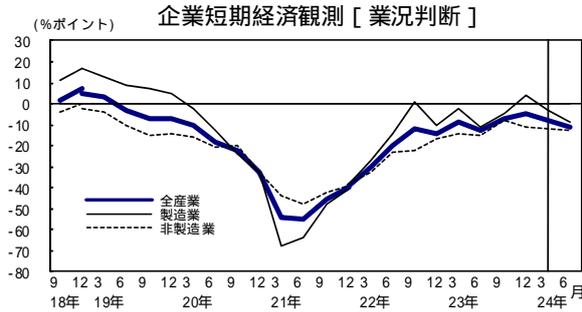
	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
一般機械	16.2	5.7	5.1	-	-	-	-
電子部品・デバイス	15.8	6.3	12.8	-	-	-	-
化学	14.5	6.8	11.0	-	-	-	-
金属製品	9.2	0.8	1.8	-	-	-	-
繊維	8.5	0.7	1.2	-	-	-	-
鉱工業	100.0	1.6	5.2	-	-	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

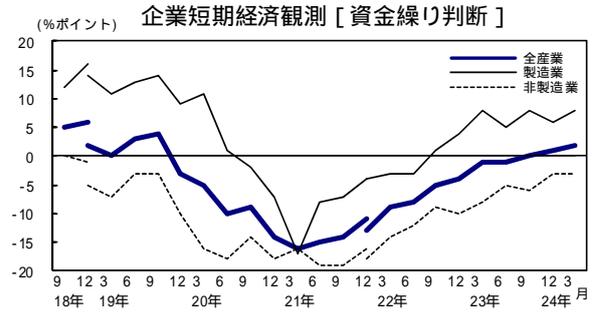
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

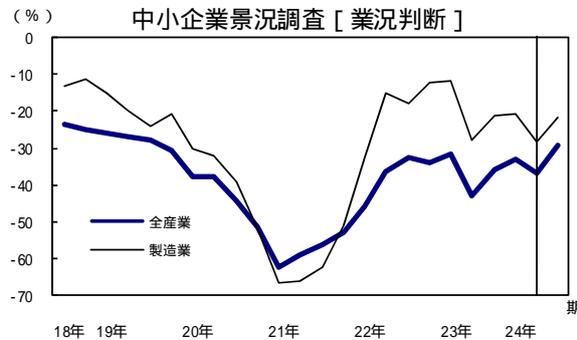
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

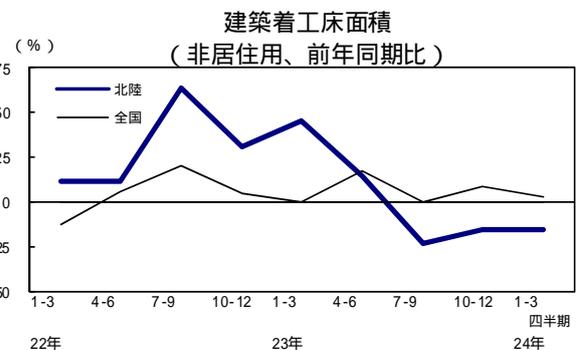
「電子部品関係では、スマートフォンやタブレット端末向けの部品の注文は異常なほどあるが、これらのみ好調であり、その他の製品向けの部品はさっぱりである(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度計画
全産業	0.7(0.3)	12.7
製造業	6.3(0.2)	15.0
非製造業	16.4(2.2)	3.8

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

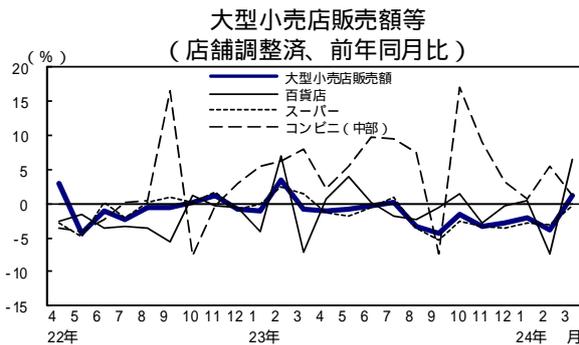
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.6%減、前期比で横ばいとなった。

百貨店は、1月は、改装セール効果や冬物衣料に動きがみられたこと等から前年を上回った。一方、2月は、記録的な大雪や寒波に見舞われた影響で来客数が減少したこと等から前年を下回った。3月は、東日本大震災による影響の反動や改装効果等から前年を上回った。スーパーは、野菜の価格上昇や記録的な大雪、東日本大震災による影響の反動減等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「気温の変動が大きく冬物から春物への移行が良くないので、客の動きも弱い(商店街)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	0.7	2.4	2.5	1.6
百貨店(*1)	1.5	1.6	0.6	0.0
スーパー(*1)	1.3	2.6	3.2	2.1
大型小売店(*2)	1.3	1.1	1.4	0.6
(季節調整値)(*3)	( 0.3)	( 0.3)	( 0.5)	(0.0)
乗用車(*4)	30.9	16.8	22.6	50.2
(季節調整値)(*4)	( 4.8)	(19.5)	(2.1)	24.2

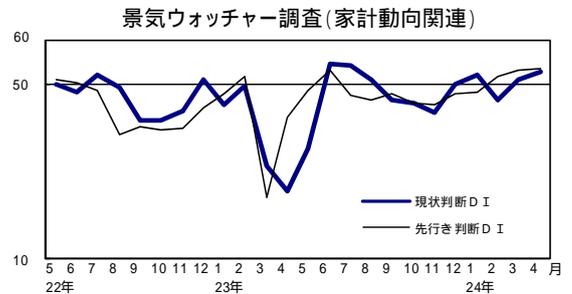
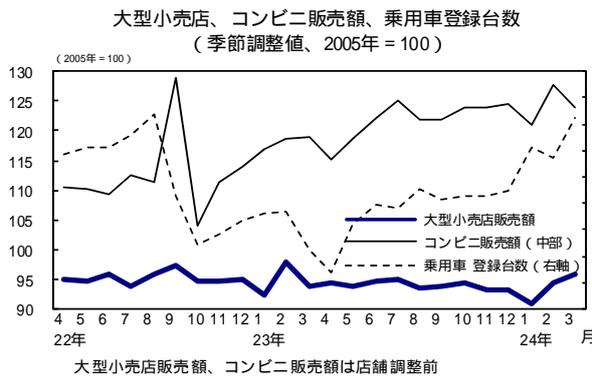
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

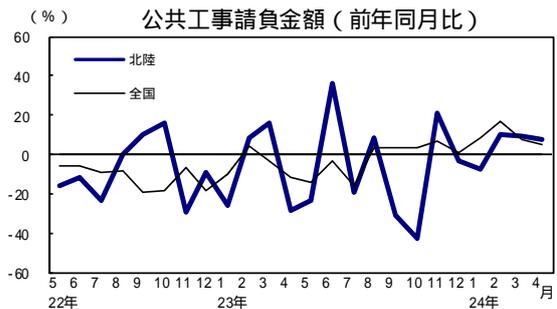
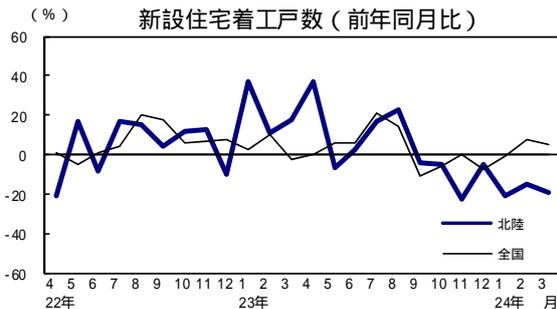
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

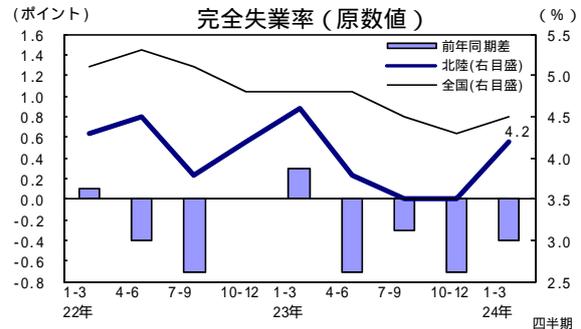
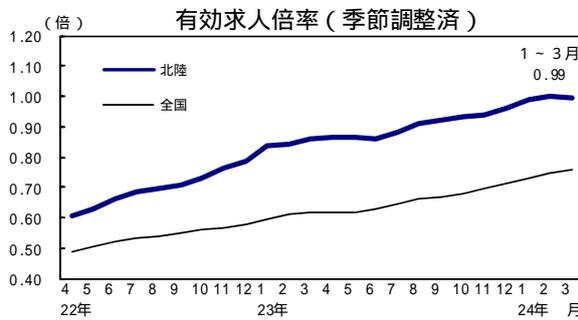


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

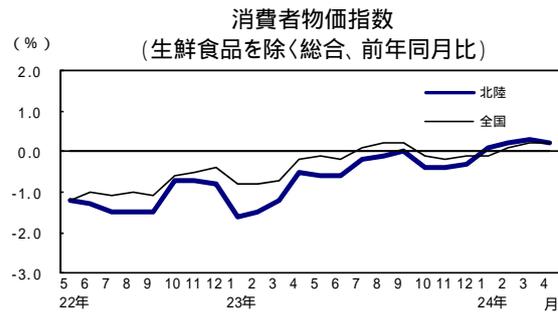
「新規求人数は前年同月比で26か月連続して増加しており、新規求職者数は減少傾向にある。有効求人倍率も9か月連続して1倍を超えており、持ち直している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数	107	72	70	87	28
(前年比)	44.6	28.0	9.1	11.5	6.7
負債総額	223	201	238	184	29
(前年比)	56.2	34.3	15.6	6.2	38.1



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・消費税が上がるまでに建築したいと思う客が動き出しており、潜在客が顕在化してきた(住宅販売会社)

<先行き>

・デフレ状態が長引くなか、米や豚肉などの食材は値上がり基調である。店側が相当部分の吸収を余儀なくされている状況にある(コンビニ)

